

厳島神社：管絃祭の屏風

毎年恒例の管絃祭は宮島で最も壮大で人気のあるイベントです。祭の間、楽隊が厳島神社および本土・宮島の他の神社との間を走る精巧に装飾された引き船に乗って雅楽を演奏します。1928年に描かれたこの屏風の色鮮やかな祭の風景では、中央に楽隊の舟が配置され、周りには牽引する数艘の漕ぎ船が囲んでいます。

祭の起源は、力を誇る平清盛(1118-1181)が舞楽や雅楽、その他京都の貴族文化の要素を宮島に伝えた平安時代(794-1185)後期までさかのぼることができます。これらの伝統には娯楽のため、また海の神々を称えるための両方の目的で、舟上で音楽を演奏することも含まれました。しかし、現在のプログラムと舟の編成は、江戸時代(1603-1868)までは成立していませんでした。祭は伝統的な太陰暦における6カ月目の17日目の夜、7月中旬から8月初旬にかけて行われます。